



早苗そよぐ棚田 茅根町

水の思い出

～ 5 ～

「井戸水」

水道の蛇口をひねると勢いよく出てくる水。昼夜を問わず、いつでもふんだんに使うことができる現代社会。今ではこんな当たり前のことが僅か40年前の片田舎では特異なことだった。

私の住む家の隣のおばあちゃんは現役を引退していた。いわゆる隠居生活である。このおばあちゃんは毎日朝早く起き、日の出とともに冷たい井戸水で顔を洗うのが日課であり、一日の始まりであった。むろん今のような水道はあるはずもなく、手動式の汲み上げポンプ（通称：ガッチャンポンプ）だった。この冷たい井戸水で顔を洗った後、頭にかぶっていた手拭いで顔を拭く。そしてその手拭いを小脇にかかえ、頭を覗かせたばかりの太陽に、しばしの間静かに手を合わせていた。その時間は僅かであっても、^{ひととき}厳かに感じる一瞬であった。

当時まだ幼かった私には、何故毎日冷たい井戸水で顔を洗い、太陽に手を合わせていたのかを知る由もなかった。今の年齢になってみると、今日も無事に朝を迎えられたことに対する感謝の気持で太陽に手を合わせていたのにちがいない、と考えるようになってきた。

今は懐かしいあのガッチャンポンプより滴り落ちる水は、朝日を反射し、筆舌に尽くし難い美しさだった。もうすぐ季節は初夏。あの頃の井戸水の冷たさの感触が、私の水の思い出。

(M・S)

マルチ主婦はガンバッテいます

瑞龍町 椎名 鈴子 さん

今回は、近い将来常陸太田市にも誕生するであろう、総合型地域スポーツクラブの育成に、活躍が期待される文部科学省認定のスポーツ指導者、瑞龍町「椎名 鈴子」さんを尋ね、作詞家として、また、スポーツに地域のボランティアに、情熱を傾けられる心情の一端を述べていただきました。

誰でも一度だけは小説がかけると聞いたことがあります。その時はあまり気に留めることもありませんでしたが、今になってその意味が分かるような気がします。それは誰の人生でも、その本人だけのものであり、他人には窺い知れぬ部分がある。それが小説の素材になって、興味や関心を抱かせることが出来るということなのでしょう。

小説はともかくとして、趣味で始めたカラオケがきっかけとなり、瑞龍小学校をモデルにした『みんなの同窓会』の作詞を担当したことが契機となって、才能のなさを

つくづくと知らされながらも、歌謡曲の作詞を少々ながら手掛けてきました。『磯原雨情』と名付けた曲を作詞していたとき、童謡を取り入れてはと思い「七つの子」を選んだのですが、これがまた大変でした。「七つの子」を作詞された「野口雨情」の孫に当たる野口不二子様や、作曲をされた「本居長世」のお子様の若葉様のご承諾を得るために、まずはそのつて探しから始め様々な方々のご好意により、やっとのおもいで完成にこぎつけることができました。お陰さまで昨年の梅の香が漂う時期にパルティホールで、その歌の披露を兼ねて「音楽活動作品発表会」を催すことが出来ました。

「山吹卓球クラブ」で卓球の指導を始めてもうかれこれ20年以上になりますが、この経験を活かし、また、誰でも何時でも自由に卓球をとの思いから、自宅の敷地内に卓球場を建て、「瑞龍卓球場」の運営を手掛けるようになってから、既に数年が経過しております。

それに伴って「日本卓球協会指導員資格」「卓球審判資格」を取るようになり、それと相前後して「常陸太田市体育指導員」「常陸太田市体育協会卓球部」「茨城県地域交通安全活動推進委員」「太田地区交通安全協会交通指導員」と専業主婦の立場から、社会的な活動で地元にながしかのお役に立てるような務めをさせていただくようになりました。

“人との出会い”と“昨日より今日、今日より明日への向上”が、今まで私をつきうごかしてきたように思えてなりません。そのような訳で、これからも何であれ期待するとともにチャレンジしていこうと思っております。

(Y.Y)



子どもたちを主役に！

社会福祉法人設立準備団体 常陸ふれ愛の会



「常陸ふれ愛の会」は、知的障害（自閉症など）を持った子どもたちが、ノーマライゼーションの理念のもと、地域の中で喜びや悲しみを感じながら、生き生きと暮らせる入所施設づくりを目指しております。

会のエッセンス・モットーは「和・輪」。活動拠点「なみきの家」（那珂町）では、子育てのおしゃべりの時間を大切にしながら小物づくりをしてバザーをしたり、自閉症児を持つ家庭が主人公の映画「学校」の上映会を行うなどの活動をしています。

今年2月、市生涯学習センターで「アート展」を開催いたしました。子どもたちの絵や習字の展示やバザーをしたり、広報誌やパンフレットなどをお渡しする中で、「毎年観にきてますよ」「孫が自閉症なの...」「ボランティアしたいのですが...」などとたくさんの温かい声をかけていただき素敵な交流の場になりました。

今春、当会は「大好きいばらき県民会議」の福祉部門で「県民活動奨励団体」として選ばれました。子どもを療育しながらの地道な活動が認められたうれしさとともに身の引き締まる思いであります。今後もこれを励みに皆様のお力をお借りしながら、「子どもたちを主役に！」プロセスを大切に親として努力を重ねて行きたいと思っております。

(川又 幸子)

学び舎から
世矢小

マイ スミルプロジェクト

本校では、第5学年の「総合的な学習の時間」のテーマを「スミルプロジェクト」として学習を進めています。

まずは、5月17日(木)に「田植え」を実施し、学習がスタートしました。

学校には田んぼがありませんので、中庭の花壇を急ぎょ田んぼに改造し、「苗」は児童の家からいただいたもので行いました。田植えをしたことがない児童が多く、先生の指導を受けながら神妙な面もちで行っていました。また、昔の田植えの様子を調べていた児童が「田植え踊り」を披露するなど場を盛り上げました。「田植え」を単なる「米づくり」として行うだけでなく、お祭りの行事であったということも理解できたようです。

今後は、「米」をテーマに児童たちは、それぞれに「課題」を持って学習に取り組んでいくわけですが、「外国における米づくり」、「主食以外の米の利用」、「米づくりの歴史」、「わら細工」等へと発展していくものと思われます。

子どもたちがこれらの活動を通してどのように成長していくのか、大変楽しみです。



子育て奮闘記

踊るママパラダイス⑥

すみれは絵を描くのが苦手だと言います。理由は簡単。下手だからだそうです。私は子どもの描く絵を下手だと言ったことはありません。下手な絵などあるでしょうか。大きな画用紙に書きたいモノを思い切り描く子どもの姿が好きです。だから子どもの絵を見たときにあれこれと手を加えたことはないし、ましてや下手だと言ったこともありません。それでもすみれは苦手だと。

「ほかの子は、もっとうまくかくもの。」

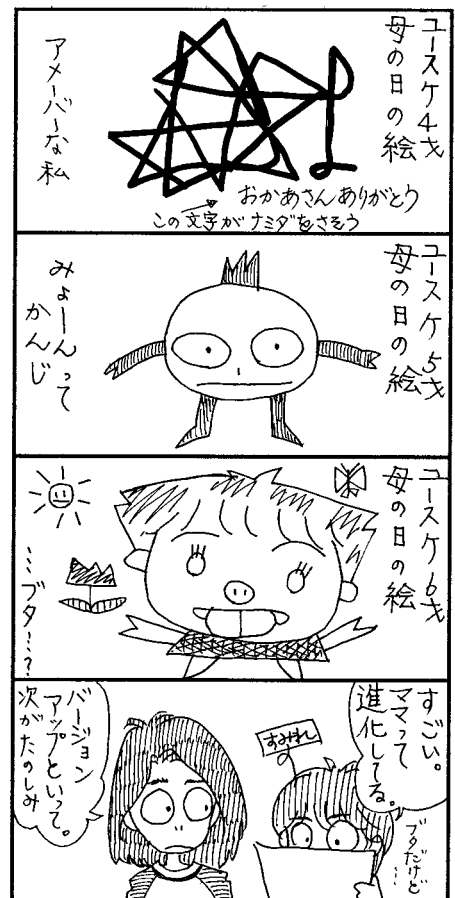
かく言う私も風景画、人物画、静物画のたぐいが嫌いです。子どもの頃一生懸命に描いた友達の絵を先生に「漫画のようだ。」とため息混じりにいわれた時からです。いじけた私は写生会の時画用紙を半分に区切り灰色と水色に染め「橋桁です。」反抗的な態度は今思えば認めてほしがったためだと思えます。

でも、すみれは頑張りたいと思ってるようです。2年生の写生会が終わったある日、私の前で思っきり肩を落とし「頑張ったけど賞が取れなかった。」というのです。すみれの中に子どもの時の自分を見たようで、私はにっこり笑うと「じゃあ私が金賞をあげましょう。」と持ち帰った絵に金色の折り紙を張りました。

「もちろん先生もすみれの努力は知ってるよ。ママもね。」すみれが照れたように笑ったのがとても印象的でした。

P.N. 織田裕子 常陸太田子どもの劇場

だんだん人間に近づく私



学校へ行こう!

「ご自由入りくしゅんです」

「オクラホマなんて何十年ぶりかしら」

「…」

「はやく寝ようね、ボクも眠くなっちゃうから」

「この力強い下半身の筋肉を見よ!」

「体育祭は秋」は昔のこと。先生と生徒のつながりを一気に深めようと春に行った体育祭は大成功。地域の方にも広く来場を呼びかけ、予想以上の盛り上がりでした。また、学校週5日制が進む中、あえて太中祭を毎年秋、パーティホールで開催しています。学校よりも気楽に足を運べるホールでの開催にはPTAの協力もかかせません。ステージで懸命に歌う子どもたちの姿はこころうつものがあります。

「オクラホマなんて何十年ぶりかしら」

「…」

「はやく寝ようね、ボクも眠くなっちゃうから」

「この力強い下半身の筋肉を見よ!」



「体育祭は秋」は昔のこと。先生と生徒のつながりを一気に深めようと春に行った体育祭は大成功。地域の方にも広く来場を呼びかけ、予想以上の盛り上がりでした。また、学校週5日制が進む中、あえて太中祭を毎年秋、パーティホールで開催しています。学校よりも気楽に足を運べるホールでの開催にはPTAの協力もかかせません。ステージで懸命に歌う子どもたちの姿はこころうつものがあります。

地元の商店会の協力など、身近で職場体験も多く行われており、今の中学生もまんざらじゃないと感じられた方も多いことでしょう。地域で生きる大人の姿を間近に感じられるのも太田中が地域にとけこんでいる表れです。



「はやく寝ようね、ボクも眠くなっちゃうから」

昨年秋に祭。初日は唱祭と吹奏の発表の場ワクワクすは「生きる中に、幼稚長く段階的えたら、普がですか。」

太田中



峰山中



「この力強い下半身の筋肉を見よ!」

4

あそぼう
70分

「オクラホマなんて何十年ぶりかしら」

「…」

「はやく寝ようね、ボクも眠くなっちゃうから」

「この力強い下半身の筋肉を見よ!」

▶昔学校は地域のまん中にあった。運動会といえば「地域のお祭り」だった。そんな学校がいつのまにか地域から少し遠くになっていった。「子どもは地域で育つ」をもう一度言葉に、今その遠くになっていた学校を地域へつなげる。学校の開放化が進んでいる。そんな学校に行くと



世矢中



「教室の中に
たて穴式住居発
見!?!いいか際
始ろ!」

にお
ださい、
この部屋



開催された「あすなる祭」は、2年に1度の大文化
広く足を運んでいただく様にパルティホールでの合
奏の演奏、2日目は学校で子どもたち自らが表現す
です。文化祭を創り上げていく過程で生まれてくる
る心や豊かな発想・創造力そして成し遂げた充実感
力」そのものではないでしょうか。のどかな田園の
園・小学校と共に並んでいて、子どもたちの成長が
?にわかる地域でもあります。にぎやかな声が聞こ
段着のまま、手ぶらでちょっとのぞいてみてはいか

「みんな注目~!
おもしろかった
で~す」



瑞竜中



「この人誰?
黄門さんじゃ
ないよね...?」

地図を片手にまちを探検して歩く中学生を見か
けたことはありませんか?「地域を知る」総合的
な学習で、西山公園までウォークラリーを行いました。水戸黄門ゆかりの地を巡りながら自分の足
でふるさつを感じて歩いた思い出は、どんな教科
書よりも印象深いことでしょう。



ステージから自分の想いを投げかける「瑞中生
の主張」は、生徒発・生徒企画の初の試みでした。
笑いあり、涙あり、ステージ上の生徒の心からの
叫びを聴こうと会場が一体となった瞬間、水を打
ったような静けさの中に力強いパワーを感じまし
た。

学校においでの際には職員室に
一声かけてください。

峰山の子どもたちをひと言で表すと、素直でゆ
ったり。体育祭でひときわ目をひくのは仮装パレ
ードです。ぜんぶ自分たちで考え、趣向を凝らし
た扮装やしぐさが笑いを誘い、こころの交流の輪
を広げています。

峰山の一押しは、ボランティア活動。何年にも
わたって学区内の駅舎を親子で清掃し、地域のま
ちづくりにも貢献しています。

2017年に行くと

学校を地域へつなげる。学校の開放化が進んでいる。そんな学校に行くと

さわやかなハワイの風をあなたに！

フラダンスを始めてみませんか



髪に花・胸にレイを飾り、笑顔を絶やさずにフラダンスを踊ると、日常の嫌なことも忘れ気持ちが華やかになります。「上手じゃなくても大丈夫！楽しいが一番！」と、フラ大好きの仲間達で明るく楽しく踊っています。各種イベントに参加したり、ボランティア活動をしたり、発表できる楽しみもあります。アウアナ（現代音楽）を中心に、カヒコ（古典フラ）・タヒチアンを練習しています。運動不足やストレス解消と一緒に始めてみませんか？わかりやすい指導で、初めての方にもご年配の方にも楽しんでいただけます。

練習日 毎週金曜日（18：30～20：30）

場所 梅津会館

問い合わせ先 TEL 0294（72）8240

川崎 純子



空手！ NPO法人国際空手道連盟

極真会館 茨城支部大内道場

極真精神「頭は低く 目は高く 口を謹んで
心広く 孝を原点として 他を益する」

やってみよう！のまえにみてみようと思い、空手道場に行ってきた。

汗を流す子供たちは、真剣そのもの。道場には、礼儀と気合いが満ちあふれています。はじめて間もないという中学生もたくましくみえます。

空手は、格闘技。「スポーツを通じて痛みを心と体で理解することは、とても貴重なことだ。」と道場の先生は言っていました。

現在、子供60名、大人40名の計100名が上記の精神を掲げ稽古に励んでいるそうです。

(取材K・E)

クラス

- ・少年部（小学生、中学生、女子）
- ・一般部（高校生、一般）

会場

- ・市民武道館（山吹運動公園内）・世矢小学校体育館・東海南中学校格技場・里美村

お問い合わせ

道場責任者 大内 重幸

TEL、FAX 0294（73）1691

見学、体験随時受け付け中



殿様と蛇

佐竹城にまつわるお話し

「常陸太田そのむかし」よりく其の三

むかし、佐竹城主でたいそう蛇の好きな殿様がおりました。お城の中で蛇を飼っていたので家来や女中達は、毎日いやな思いをさせられていました。さほど大きな蛇ではないのですが、女中の中には恐がって近づかない者さえいて、これには殿様も困っておりました。しばらく考えた末に殿様は、とうとう蛇を山に戻す決心をしました。しかし、命ぜられた家来は、山でなくともよからうと、こっそりお城のお堀に捨ててしまいました。

ある夜のこと、殿様の夢の中にその蛇が現れ「お殿様、私は今お城のお堀にいます。ここには主がいて、私はいじめられてばかりいます。どうか助けてください。」と弱々しい声で訴えるのです。殿様は、蛇をお堀から探したさせ、「よしよし、もうこれで大丈夫」と、頭に八幡宮のお守りを結んでやりました。するとその晩また夢の中に蛇が現れて「お殿様、ありがとうございました。おかげであの主はいなくなり、私が主になりました。ご恩は一生忘れません。もし日照りが続き水不足でお困りの時は、私にお申しつけください。きっと雨を降らせてみせます。」というと、ふっと消えてしまいました。

それ以来、水不足で困った時、お城のお堀にお供え物をして雨ごいをする、不思議なことにも必ず雨が降るので、「お吉事の雨」と言われるようになったという事です。

く読み聞かせサークル銀河ステーションく

茨城県立佐竹高等学校より 平成13年度学校開放講座のお知らせ

講座名「自然観察入門」

日程

| | |
|------------|-------------|
| 開講式・第1回観察会 | 7月6日(金) |
| ホテルの観察 | 17:15~21:00 |
| 第2回観察会 | 7月21日(土) |
| オオムラサキの観察 | 8:00~17:00 |
| 第3回観察会 | 8月18日(土) |
| 里美村周辺の観察 | 8:00~17:00 |

募集人数 40名程度(小学生以下の場合は保護者同伴)

参加費 無料(ただしバス代等の実費必要)

受付先 佐竹高校 TEL0294-72-3333

問い合わせ先 担当:佐々木泰弘

※先着順、原則3回とも参加できる方

映画を
観たいこう **ウィークエンドシネマランド**
350インチ大画面ハイビジョン映画館にみんな集まれ

ところ:生涯学習センターふれあいホール 入場無料(入場券が必要です)



観覧ご希望の方は、生涯学習センターへ直接来館してお申し込み下さい。
先着順で入場券をお渡しいたします。

【お問い合わせ・申し込み】常陸太田市生涯学習センター TEL0294(72)8888(月曜日休館)

●フォンス子どもの詩 第4回募集をいたします

募集期間 7月1日(日)~7月22日(日)

募集内容 作品は600字以内(ワープロ等可)。

末尾に①住所②氏名(匿名可)③連絡先を明記してください。

選評 フォンス・ネットワーク・みつぎ しげる

●「水」に関する写真及び「水の思い出」大募集

この情報誌のタイトルの「フォンス」とは、ラテン語で「泉」という意味で、情報が泉のように溢れでるような情報誌をめざしています。

そして、この情報誌の表紙は毎回「水」にこだわり、写真と「水の思い出」と題した記事を掲載しています。

そこで、今回この情報誌の表紙を飾る「水」に関する写真と「水の思い出」の投稿記事を大募集いたします。

(写真)プリント(Lサイズ以上) 直接持参又は郵送

(水の思い出)400字程度 直接持参、郵送又はE-mail

【応募先・問合せ先】

常陸太田市フォンス・ネットワーク事務局

〒313-0061 常陸太田市中城町3280番地

常陸太田市生涯学習センター内

TEL 0294(72)8888 FAX 0294(72)8880

E-mail ota-lls1@po.net-ibaraki.ne.jp

またまた登場

太田のヨマチ(夜祭)

フォンス創刊号に特集として掲載したところ「もう一度載せてほしい」「ぜひ行ってみたい」と若い主婦からお年寄りの方までご希望が多かったので、またまた登場です。

今年は去年と開催日が違うので注意してね!

7月21日(旧暦6月1日)

山田神社(西三町)

7月27日(旧暦6月7日)

熊野、八坂神社(木崎二町)

7月29日(旧暦6月9日)

古刀比羅神社(内堀町)

8月3日(旧暦6月14日)

板谷稻荷神社(東二町)

8月4日(旧暦6月15日)

若宮八幡宮(鎮守)

8月5日(旧暦6月16日)

水玉稻荷神社(塙町)

8月6日(旧暦6月17日)

舞鶴稻荷神社(中城町)

8月7日(旧暦6月18日)

白鳥神社(寿町)

下井水神宮(木崎一町)

8月8日(旧暦6月19日)

別雷神社(鎮守境内)

三峰神社(木崎一町)

8月9日(旧暦6月20日)

別雷神社(西三町)

8月11日(旧暦6月22日)

鑄銭座稻荷神社(山下町)

8月13日(旧暦6月24日)

愛宕神社(栄町)

鎮守境内愛宕神社

8月14日(旧暦6月25日)

鹿島神社(宮本町)

8月16日(旧暦6月27日)

御岩神社(東三町)

8月17日(旧暦6月28日)

阿夫利、石尊神社(東一町)

8月18日(旧暦6月晦日)

伊勢神社(皇大神宮)(金井町)

8月19日(旧暦7月1日)

秋葉神社(東三町)

8月20日(旧暦7月2日)

稲荷神社(栄町)

リレー
エッセイ

「思い出の絵本」～6～

(田渡町 棚井美智子さん)

ひとりあそびの姫君

娘が子供の頃好きだった漫画作家が、初めて絵本を出版しました。「ひとりあそびの姫君」という名の絵本です。本屋さんで手にした娘は、「私も小さい頃こんな夢を見ていたヨ。」とかわいい絵にもひかれ購入しました。その絵本は、一人お留守番をしている時、少女がママに内緒で口紅をべたべた塗ったり、ママのネックレスをかりて、お姫様の世界にあこがれるという話です。でもそれは、大人の目にはイタズラにしか映らないのです。しかられても、子供にしてみれば大マジメ!! 少女時代に思い描いた世界。そんな世界を女の子なら一度は夢みたのではないのでしょうか。

成人した娘は、今どんな夢をみているのか、ふっと、遠い地にいる娘を思い出しました。

(次回は武藤恵子さん)



ほつ
とひといき

コアジサイ

(ユキノシタ科)



山地や丘陵の林下に生える落葉低木で群生することもある。葉はちょうどシソの葉のような形をしており、縁には大きな鋸歯(ギザギザ)がある。葉の表面には光沢があり、両面に毛がある。

花は5～6月に咲き、淡紫色また白色の小さな両性花を多数つける。花弁とオシベがおりなす繊細な美しさは、梅雨空に一段と映える。

庭木などとして植えられるアジサイの花は装飾花(中性花)であり、花弁に見えるのはがく片である。コアジサイにはこの装飾花がない。

文：長岡勝典

写真：6月9日(土)の第2回常陸太田親子自然探索サークルで高鈴山を探索したときに撮影



ちょっとひといき

チョコそぼろパン

ナチュラルベーカリー
TOYODO(東洋堂)
内堀町 TEL72-0328

高校時代、よく購買部で買った「いぬパン」に25年ぶりに出会いました。今は「チョコそぼろパン」と名前をかえていましたが、味も形もその時のまま。縁あってこの地に嫁いでの再会に思わず「これは!」。ひとつの机を囲んでワイワイ食べたお昼の光景が鮮やかによみがえってきました。

「安全で自然なものを安く地域の皆さんに提供できたら」と話してくださった三代目のご主人。店内には40～50種類のパンが並んでいます。幼稚園のそばでお子さん連れの方も多く、大きくなった時私と同じ様に思い出のパンに出会えるかも...と、パンの焼ける豊かな香りにつつまれながら幼子の横顔をみつめていました。

(Y.G)

私の宝物・すてられない物

「如水心の額」



「女が4年制大学なんか行ったら嫁の貰い手がなくなっちゃう」「おまえが男だったらよかったのに」これらは皆、父の言葉です。父は私にとって「理不尽」そのものと思えたものでした。

昭和60年、私の結婚が決まったとき、父に呼ばれ「賜った」がこの額です。

「水は方円の器に従うという。おまえはこれから嫁ぎ先の色に染まっていくのだから、その心構えとしてこの額を贈る」と...

父は父が育った時代(昭和初期～戦前)の価値観を具現化して私の前に座っていました。一方、高度成長期に男女平等の教育を受け育った私は、その時、上の言葉を父の愛とは受け取れず、世代のずれを強烈に意識させられました。

父と娘の複雑な思いのすれ違いの証として、そして私の幸せを精一杯願ってくれた父の愛情の証として、この額は今も居間の長押しに飾ってありますよ、お父さん。

(K.T)